みんなの広場

みんなの愛に包まれながら

はっらつ ところ 野老っ子

星野　あまなさん
（北秋津在住）

「私も描いてみたい」。いつしか女の子は絵筆を手にするようになり、動物や花を描くようになりました…。今回は、病気と闘いながら、大好きな絵を描き続けている星野あまなさんを紹介します。

あまなさんは、生後まもなく色素性乾皮症と診断されました。紫外線を浴びると体が衰弱し、やがてさまざまな機能が弱ってしまう難病です。このため、日中は安易に外出することができず、自宅で過ごさなくてはなりません。そこで、お母さんは図書館で絵本を借りては、読んで聞かせました。

絵本の影響を受けてか、絵を描くことが好きになったあまなさんに、ご両親は、自宅の近くにある絵画教室へ通うことを勧めました。一生懸命に腕を磨き、見る見るうちに上達していきましたが、小学5年生のころ、事情があって教室をやめることになりました。

14歳のとき、新聞をみて障害のある方に絵を教えている絵画サークルがあることを知り、あまなさんは再び絵の勉強を始めました。そして、先生の懇切丁寧な指導のおかげで、絵を描く楽しさを、より知ることができました。

一方、絵の好きな少女も描くことに没頭するばかりではありませんでした。小学2年生のころには、1つ年上の兄が友達と外出する姿を見て、あまなさんは言いました。「自分もいろいろな所へ行ってみたい」。ご両親は、そんな願いをかなえるために、遠出をすることもありました。

キャンプ場へ行き、飯盒炊さんやテントでの寝泊り。また、海に行って、砂浜で水遊びも経験しました。それは、日中に外出ができない体を気づかい、日暮れから早朝にかけての外出でした。昼夜を逆転した活動でしたが、家族全員ですてきな思い出を作りました。

今年、あまなさんはめでたく成人を迎えました。その記念にと、絵画サークルの先生から個展を開く機会をプレゼントされ、2月に並木公民館で『20歳の記念作品展』を開催しました。

「これからも絵を描き続けたい」と笑顔で話してくれたあまなさん。今、彼女の描く絵が、私たちに夢と勇気を与えてくれています。

20歳の記念作品展

▲7段飾りの大きなひな壇に、訪れた子どもたちは大喜び！ママたちは昔を思い出しているのかな…。
2月19日㈭／松井公民館

▲市民武道館開館10周年にあたり、すばらしい演武が披露されました。「第9回武道祭」。
2月8日㈰／市民武道館

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 47

北野・画僧雲渓の碑

墨梅図碑

北野の全徳寺は、蝋梅の咲くお寺で有名です。蝋梅の見ごろは過ぎましたが、境内には、ほかに野梅や紅梅なども咲き、訪れる人を和ませてくれます。全徳寺は、曹洞宗の寺院で山号も梅林山といいます。

ところで、同寺の13世住職に法名を嶺明、号を雲渓（1830～1901）という幕末から明治にかけて梅の絵を得意とした画僧がいました。

境内には、明治32年（1899）に建てられた「雲渓師紀徳碑」と「墨梅図碑」の2つの顕彰碑が建てられており、雲渓をしのぶことができます。

雲渓は、市内山口の粕谷家の生まれです。8歳で全徳寺に入門し、17歳のとき諸国を修行して宇治の興聖寺で学びました。帰郷後、山口の来迎寺などの住持を経て28歳で全徳寺の住職になりました。

雲渓は、住職のかたわら村内の子弟に読み書きを教える寺子屋師匠でもありました。また一方で絵画の技を磨き、中でも墨梅図を得意として描きました。碑文によれば、明治10年（1877）と同14年の内国勧業博覧会に出品した墨梅図が高い評価を得たとあります。

雲渓は、絵を月下園という江戸本郷の画人に学びました。月下園は号で、同じ号の画人が3代に渡っており、その初代が梅本樵渓という墨梅図を得意とした画僧でした。雲渓の号は、初代の名前から1字をとったものと考えられます。

しかし、雲渓が梅を好んで描いたのは、こうした師匠の影響だけではありませんでした。彼は全徳寺からほど近い北野天神社にたびたび足を運び、境内に咲き誇る梅の老樹を写生したといいます。

同社は菅原道真公がまつられている古社であり、梅を愛好したという菅公の故事から梅とのかかわりも深く、雲渓も同社の梅に心ひかれるものがあったのではないでしょうか。

雲渓の描いた墨梅図は、今日北野周辺の家々に残されています。顕彰碑の銘文や寄進者の名前などから、雲渓が多くの人に慕われていたことがうかがえます。同時に、雲渓と墨梅図は、北野が梅と縁の深い地域だということを改めて教えてくれます。

梅林山全徳寺

▲♪梅は咲いたか、桜は…。市内のあちらこちらで日まじに春の訪れを感じることができます。
2月18日㈬／所沢航空記念公園内・梅園

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「桜」▶桜の季節は別れや出会いのときです▶1年の節目の中で一番胸熱くなるときではないでしょうか▶皆さんの桜にまつわる思い出話などをお寄せください▶締め切りは3月12日㈮必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

少子イツル ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

- **譲ります**　▷シューズ乾燥機▷手提げ金庫▷ラジカセ▷洗濯機▷シルバーカー▷木製ベッド▷三輪車▷木製滑り台▷ランドセル（赤）▷手動芝刈り機▷オーブントースター▷電子手帳
- **求めます**　▷子ども用自転車（18インチ）▷ノートパソコン▷物置▷ホットカーペット▷座卓▷自転車▷工業用ミシン▷テレビ▷卓球台▷CDラジカセ

◎このほかにも多数登録されていますので、お問い合わせください。

受付方法　電話による先着順で紹介します。
休館日　月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　勉強

学ぶ喜びと自信

林・木田　雅雄

一生懸命に勉強して合格した高校の先生に、「学問を学ぶ喜びと自信」をいただいた。

1年生のとき、地理の先生は1人に1つの国を担当させ、生徒自身が調べて学友の前で発表するようにと指導された。

私は、「EC（ヨーロッパ共同体）」を担当することになった。夏休みの1週間、集中して図書館で調べ上げた。2学期、まとめたものを発表し、学友の質問に答え、補足を先生にお願いした。

苦労した分、今でもヨーロッパのニュースには興味がわくし、諸外国の考え方や立場の違いが理解できる。これも、学友の発表を中心とした授業のたまものと思っている。

自分から進んで研究していく勉強は、財産となり、生活していくうえでも大いに役立つのである。

自分の時間

三ヶ島・杉村　キミ子

4年前、ケアハウスに入所したとき、自由に使える自分の時間は、ものを学ぶことに使おうと決めました。

嫁のすすめで、月2回は「ちぎり絵」を習いに行くことにしました。それは今でも続いています。これと同時に始めた「自然観察」は、2年余りで体力的に無理とわかり、心残りながらもやめることにしました。

現在は、市民大学や公民館主催の講座などに参加しています。1世代も違う年齢の人たちと一緒で、とても楽しいです。出席することに意義があると思い、また今日も参加します。

漢字は奥が深い

本郷・平野　信子

子どもが通っている中学校では、国語の選択科目で漢字検定試験の勉強をする授業がある。

私は高校生のころ、各教科の先生方が板書する誤字が気になり、漢字には多少興味があったので、保護者も参加できるこの授業を、昨年の6月から中学生と一緒に受けている。

始めてから「やる気が起きない」と時々言う我が子の気持ちがよくわかる。私も机の上に問題集を広げるまでに時間がかかり、やっと軌道にのっても集中力が続かない。

それでも昨年の11月には、準2級に合格した。この上は2級・準1級・1級とあり、1級はどの程度のものかと思い、本屋で問題集を見たら、見たこともない漢字ばかり…。漢字は奥が深いと思い、地道にやることにして、2月上旬に2級を受験した。おかげで、昨年の今ごろはまったく知らなかった四字熟語を随分と覚えた。

実感

小手指町・桧山　節子

学生時代の勉強は、好きではなかった。山ほどの宿題や泣きたくなるほどのテストのたびに、「どうして勉強しなきゃいけないの、早く大人になって遊びたい」と叫んだものだ。

ところが、大人になってからの社会勉強の方がずっと難しく、大変だった。先生はいないし、助けてくれる人もなく厳しいのだ。あげくのはて、勉強嫌いだった私は失敗の繰り返し。

学生には、大人や社会に守られ勉強する特権が与えられていて、頭も柔らかい。どんなに勉強しても大丈夫。

今、苦しくてつらいかもしれないが、「ガンバレ！」。きっと、大人になって社会に出たとき、勉強して本当に良かったと実感できるはず。そして、ステキな大人になって日本を支えてほしい。

楽しい毎日

北有楽町・荻野　幸雄

65歳でリタイアしてから、趣味と勉強の2本立てで古希を過ぎた。所沢市高齢者大学で1年、彩の国いきがい大学所沢学園の1期生で1年。そして現在は、彩の国いきがい大学東松山学園の2年制に学び、来年3月には卒業となる。

今は週1回、車で東松山の学園へ。午前9時30分から午後5時まで、同年輩の方たちと班・ホームルームで机を並べ、勉強やクラブ活動を学び、お弁当を食べながら元気に楽しく！

4月からは、課題学習で班別にテーマを決め、自分たちで調べたものを5か月間でまとめて、学園生125人の前で発表する等、チームワークが決め手になる楽しい毎日だ。

もっと違う勉強を

東所沢・勅使河原　亜矢

今の時代、もっと違う勉強をしてもらいたい。それは、皆が生活するうえでの〝一般常識〟の勉強である。

もともと大人が原因？だが、他人に迷惑をかけたり、ルールを守らなかったりする人へ、なぜ、それらをしてはいけないかという理由を勉強してもらいたい。

そして、皆が心地よく生活できる時代につながるとうれしいな。

とことこ 町内会めぐり

【旭町町内会】
～自立型町内会を目指して～

旭町は、旧町（所沢）地区の東に位置し、太陽が一番早く当たることから、その名が付きました。当自治会は、戦前に発足し、昭和30年代に西武新宿線を境に分かれ、現在に至っています。

主な行事は、夏まつり盆踊り大会、ところざわまつり、体育祭、親子餅つき大会、新年会などです。これらの行事の多くが「旭町有和会」の協力によって成り立っていることが特徴としてあげられます。

有和会は、地域社会への貢献と子どもたちの思い出づくり、会員相互の親ぼくを図ることを目的に、ボランティア精神の有志が集まり、平成2年に設立されたものです。

一切の補助金を受けずに、夏まつりでは70kgのかき氷を、餅つき大会では60kgのお餅を無料で振る舞ってくれます。また、昔の子どもたちの遊びを紹介したり、行事の準備作業も一手に引き受けたりしてくれます。

夏まつり盆踊り大会

ところざわまつりでは、山車の運行の主役となり、子どもたちの安全にも目を光らせてくれます。

これらの資金には、会員がさまざまな事業に携わって、汗を流した売上金が充てられています。

行事には、各種団体も協力し、いやおうもなく盛り上がります。昨年の体育祭では、その勢いで優勝の栄誉を得て、大変よい年でした。今後も、自立型町内会を目指して頑張ります。

次回のテーマは「桜」です